

問4 米国・カナダ以外の牛肉等のリスク評価を行う際(自ら評価、諮問を受けて行う評価を問わず)に、ステイクホルダー(消費者、事業者、専門家などの関係者)の方とリスクコミュニケーションをすすめていく上でどのようなことが必要だと思われましたか、どのように評価をすすめていくべきと思われませんか。(たとえば、すべての国を一律に評価するのではなく、輸入量の多い国から優先的に評価するなど)本件の評価について、ご意見等をご記入ください。

1	加工食品については原産国がわからない。食品安全委員会で評価されてもその情報は食品を購入する時には反映されないのでは? 関係省庁との連携の仕方も同時に考えてほしいし、情報開示の方法も考えてほしい。
2	評価国をどのように優先的に決定していくのか委員会の考え方を示すべきではないか
3	今回の評価について、消費者まで幅広く分かりやすく情報開示を行っていきべきだと思います。(どれだけ幅広く伝えられるかが重要だと思います。)
4	GBR、OIEによるステータス評価を受けておらず、かつ牛肉関連調整品の輸入量の多い中国を優先的に評価してもらいたい。
5	輸入量にとらわれず、輸出国の潜在的なリスクを一律に評価すべきだと思います。そのためには、政治的な配慮も必要とは思いますが、必要な情報収集を早急に行うべきだと思います。この際、自ら評価か、諮問を受けて行う評価であるかは、特に論点ではないと思います。
6	輸入量の多い国から優先的に評価することは、当然のこととして、データ提供等、我国が求める正確なものがすみやかに提供する国から評価していくべき。それによって消費者等は自ら判断出来ると思慮される。
7	輸入量など国内への影響も配慮すべき
8	不明な国からやるべき。
9	BSEの原因についての科学的解明の進捗度について、国際的な面と日本独自の面を公開、説明しながら評価をお願いしたい。
10	GBR、OIE、(汚染原)を優先し/ノ一律評価ではない。
11	情報開示
12	すべての国を一律に評価する努力をしてほしい。
13	新聞やTVの情報によってアメリカ、オーストラリア、ニュージーランドの牛肉について関心を持ってきました。しかし総輸入量の2%とはいえ、多くの国から輸入されていることを知りました。これらのリスク評価がされていなかったことについてショックを受けました。みずから進んで、輸入量の多い国から優先的に評価することについて取り組まれることを希望します。
14	一貫性のあるリスク評価を行う必要がある。日本独自の基準でリスク評価すべきと考える
15	事前の情報提示の徹底と事前資料配布、事前アンケートの実施が必要かと考えます。パネルディスカッションの場合、一般応募枠が必要と考えます。
16	リスクが高い項目が何なのか。要求できない理由は何故か、知識を与えて欲しい。「輸出牛はBSE検査を受けた牛である」と、条件が付けられれば少なくとも安全かと思われませんが...。相手国で受け入れられないのは何故なのか? 又は要求すべき項目でないのか、等
17	消費者の立場からは、店頭にならぶ割合の高い国から...と思います
18	リスクが高いと思われる国から優先的に行う方が良いと思う。
19	情報不足、一般消費者の大部分は、270とはいえ1万トンの評価不十分に円が輸入されていること良く知らないと思う。公表についても迷うのは国民の意見をしらないから
20	これに限りませんが可能なら事前配布資料があれば、それなりに学習できたと思います
21	輸入量の多い国から優先的に評価。どの様な、評価のものさしなのか情報開示してほしい
22	輸入量が多い国はあたりまえだと思うが1%でも0.1%でも輸入ある国も必要なのがあたりまえにならないといけないと思います。

23	輸入量の大小にかかわらず、一律に評価を行っていく同時進行が行える方策を考えるべき。中間とりまとめを開示していくことを消し者は望む、データをもつことすらない国には安全について考える機会になると考える。
24	公平なデータ集収の結果に応じ、問題のない(評価が良い)国から評価を行い、問題のある国は、データとともに、このような点が問題であると公表する。またデータのない国は安全であると評価できない、このようなデータがない旨を示す
25	自ら評価については大賛成。情報をきちんと都度に発信すべき
26	正しい評価・公開性。それとスピードも大事ではないでしょうか。
27	日本の国の利益を考え、必要などころから、手を付けるべきだと思う。外国の圧力、政治家団体の圧力に屈する事なく、食品安全委員会で独自に評価して行くべきだと思う。
28	全ての国から一律にデータをもち評価するのがよい。正確な評価をするには多くのデータが必要だと思う。
29	多勢をもって決定し、その経緯は詳細に公表する。
30	リスク評価を行う相手国からの圧力の有無に関係なく、平等に対処してほしい。
31	WTOとの関係は、クリアになるのか
32	データが集まりしだい評価していくべきだと思う。
33	・他国に対して評価結果をきちんと説明できるようにすべき。評価過程、結果をOPENにして誰でもわかるようにしてほしい。
34	データがある国から順次評価公表
35	先ず米国・カナダの牛肉のリスク管理を！と思っていたので、何故？という思いが先に立ってしまった。輸入量の多い順、リスクの高い順は妥当だと思う
36	輸入量の多い国から優先的に評価する
37	評価を行った結果(情報不足等)が一人歩きしない事を望みます
38	単に牛肉のリスクとして評価するのではなく、食中毒や食品に含まれる天然の有毒物質のリスクとの比較という視点も必要と考える
39	より多くの情報が必要。
40	情報の精度がかくにんされるか判断
41	リスク管理の基本はリスク評価であり食品のリスクに適切に対処するためにはリスク評価はかせない。自国の安全を守るため積極的なリスク評価を期待します。
42	評価機関の数(or検査の種類)を複数にする。そして、すべてにおいてにしてはどうか。合格したものを輸入してはどうか
43	どのくらいのリスクかについて、自動車や、他の実際に日本に存在する病気と比較して説明して国民にアピールするべきだった。
44	開催のタイミングと情報開示・提供が重要。量の多い少ないは別にして、評価を行うべきだと思います
45	輸入量の多少にはかかわらず評価するべきだと思います。
46	輸入量の多い国から、及び評価の行なわれていない国から優先的に実施してはどうか。
47	・輸入量の多い国から優先的に、・何を評価するのかの基準も明確に。
48	広い範囲での情報収集を行うこと。得られた情報の処理経過を明確にすること。
49	輸入量の多い順を基本とする。しかし、リスクが高いと判断される国は、最優先で輸入中止措置をすべき
50	今回出席者の意見が答えではないのでもっとはば広いけんをきいてほしい
51	国としては国産生産者の保護する制策ととるべき国として自立するべき
52	消費者からすると輸入されるものすべてを評価して頂きたいです
53	輸入量の多い国からの評価
54	消費者サイドがもう少し勉強しないと、とんな質問ばかりで困る(失礼)
55	国民の食に対する安心を得るためには輸入国全てに対する評価は必要だが、当然優先順位を決めてから行い対処するのが必要である
56	1. 食品安全は国の安全に等しい。人間の生命に関する事項は全て100%のチェックをすることを原則とすべし。先で取返しのつかない事だけは避けるべきだ。結論全数検査、全数チェック
57	賛成です。手を広げてほしいとは思いますが、今までの細かさ予算等でラフな方に傾きやすい。
58	リスク評価の終了した国からのみ輸入を認めるか否かについても評価していく上で検討してほしい

59	米国、カナダ以外の国の評価についても米国、カナダと同じように評価すべきだと思います。量の問題でなくて質だと思います。リスク評価を公表して一般消費者にも感心をもって欲しいです
60	基本的には輸入量の多い国から評価を進めていただきたいと思います。ただ、中国につきましては今後食品の貿易がより大きくなると思いますので、早い段階で中国産の食品のリスク評価しておいた方がいいと思います。
61	現在輸入実績のある国の中で、GBR、OIEの評価の低いところから先に評価していくべきだと考えます。
62	ステイクホルダーの選定法、選定の公開がリスク評価の信頼性を高めると考える
63	生産量・輸入量にかかわらず、輸入経路まで確認し、報告、意見交換できるといいと思います。そのため、正確に1頭ずつ原産地が判ることが必要ですが、国内の牛についても同様に評価を行うことも必要かと思えます。輸入はダメで国内は安心というのは感覚的なもののように思えるので
64	輸入量の多い国から評価するべき。公的情報をopenにし、どう評価したのが明確にする
65	自ら評価は、積極的に行うべきである
66	輸入量、消費量の多いものを優先的に評価してもらいたい
67	本日の主旨は、「米、カナダ以外の牛肉等のリスク評価である」という点が、参加者にはあくまで、米国産についての評価又は、BSEについての2点に意見が集中し、本来の意味がなされなかったのではないかと思います。もっと、目的をはっきりさせて、それに意見をもっている方をしばって実施すべきではないでしょうか。
68	輸入量の問題でなく、早急に評価するべき
69	輸入実績量の順に行うことがのぞましいと思うが、管理不足等により、リスクが高いと思われる国も行う
70	科学的に、公平、公正に、結果の開示を判り易く
71	まず認識ギャップの差をうめてゆくことが必要であると感じた。それぞれの立場があり難しいと思うが
72	・より多数の国民にリスク評価を自から行うことを広報する努力が必要・評価過程の中間発表を行うべき。 ・中国など東アジアの諸国から初めるべき。また、BSEリスクばかりでなくその他の感染症(たとえば、鳥インフルエンザ)に関する、豚、鶏肉などのリスク評価も必要では。
73	ステイクホルダー間の理解度のギャップをへらすよう用語の説明や情報を図解するなどが必要と思った。大変かもしれませんが、評価の方法について、評価の中間報告、評価の最終結論の各段階で意見をきいたらいいのでは
74	輸入量の多少は別に、消費者の立場から見ると一律に評価する事は必要
75	(1)本委員会が輸入される全食品について輸入期日ごとの数量とその検査結果のデータを保持すること (2)保有するデータを常時公開することで消費者等の反応を知ることができる (3)(2)の結果から実輸出入評認可実施機関に各種事項を要求する
76	日本が自ら、科学的な根拠に基づき基準を設定し、それに基づく輸入規制を行うべきである。
77	・危険度が高いと思われる国・輸入料の多い国・調整品の多い国}これらの国々の評価を優先していただきたいです
78	データの無い国の状況、アプローチの状況を全員が共通把握すること。途中経過の報告とコミュニケーション。
79	安全委員会がヒアリングを行うことも可能かと思えます。輸入量の多い国から順次評価するというのは合理的だと思います。
80	参加してはじめてわかったことですが、悪いことではないと思いますのでねつ造のないように正しくわかりやすく、消費者に伝えてほしいと思います。
81	一律に評価する。又、日本がGBR、OIEの評価を受けるべき
82	・輸入国のみ評価するのは不備があると思う。(現在までに輸入実績のある国のみ評価するのであれば、新規に輸入する際に評価がない事になる) ・一つ一つの国を評価するのではなく、評価を行う方法を詳細に決定し、新規の輸入国にも対応して欲しい。
83	すべての国を平等に評価してほしいです。
84	輸入があまりにも多すぎで、どの国の事を取り上げたらいいのかが分かりません。国産にもっと、力を入れる事は出来ないものなんですか。
85	適切だと思う

86	優先的に輸入量の多い国から評価をしていくべきだと思うが、最終的にはすべての輸入国について評価してもらいたい。
87	輸入量の多い国、情報のとりやすい国 先例をつくる、という評価の進め方
88	(1) 輸入量の多い国から(2)日本のレベル、米国、加と比較して評価してもらいたい
89	一律評価(評価できる所から)
90	需要が高い輸入量の多い国から評価すべき
91	種の壁を越えたBSEの発生メカニズムetc. まだ不明な食に直結している問題を取組む姿勢に疑問を持つ。将来の子供への影響は誰が責任を持つのでしょうか? 真しという点が不足。国際基準での判断は貿易に直結しており目的が違うものときめるべきではない
92	輸入実績に関わらず、今後輸入される可能性のある国や現在は家畜疾病等で禁輸となっている国など、可能な限り多くの国を評価してもらいたい
93	多い国から
94	・牛肉等の輸入実績に基づいて、優先的に輸出国を選定するのが妥当と思う。 ・データ不足等による評価の限界や困難については、そのまま公表することによってその現状の理解を求めるのが妥当と思う。(必要によっては当議国の表示の導入も)
95	1. 消費者以外は職業者であり立場は明確だが、消費者は生計を資する業界によって見解はバラつくと考えやすい。平等にするために肩書のない人物を選ぶべき。事業者も専門家も消費者である。 2. データが無い場合などの対応を決めてから行う。
96	全ての国を一律に評価するのが理想ではある。(時間をかけても)
97	・優先順位としては、今後量の増える可能性のある国から。 ・国際基準を明確に
98	輸入量の多い国から優先に評価してほしいが、米国でかなり時間がかかった印象があるので、早くすべての国を評価してほしい。(同時進行でできれば)
99	輸入量の多い国からすすめるべき。(影響が大きい)
100	完全公開性の尊重と、迅速な対応
101	(1) 輸入量の多いところ (2) 情報のないところ、リスク評価の必要性の高いところ
102	(1) リスクの高い国から評価する (2) 輸入量の多い国から優先的に評価する
103	すべては事実の評価(不安をあおるのでなく、正確に)
104	・米国、カナダ産以外の輸入牛肉について、リスク評価を行うべきだと思う。
105	国際的な基準を参考にしてほしい。安心安全に対して消費者に過剰な情報を提供しない様にすべきだと思う。
106	量的な面と部位(危険性が高いと推定される)などにプライオリティーを与えて評価を進めるべきと考える。
107	キケン性のある国(そういっては失礼ですが)
108	スティックホルダーとのリスクコミュニケーションが実は一番、難しいのですが、現状をたんねんに継続していくことも大事かと思えます。
109	輸入量の多い所から、情報の多い所からやったのでは、真に危険である国の評価が抜ける可能性があるから、すべての国を一律に評価する方がよい。
110	輸入量が多い国及び危険度が高い国を判定しておく。
111	リスクコミュニケーションを進めてゆく上ではある一定の知識が必要だと思いました。輸入量の多い国から優先的に行う方がよいと思いました。
112	(1) 定性的評価を下す際に、問い合わせをすれば、定量的データをつつみかかず、そのデータを提供されるシステムをつくっていただきたい。 (2) 正直にデータが集められるために、BSEが出た場合の補償システムを全世界的に、補償できるように行うことが出来なければ、他の国(貧しい国)を評価できる正確なデータを収集することはできまい。これをクリアしなければ、評価する意味はなく残念ながら徒労に終わる。
113	やるなら全てやらなければ意味はない
114	OIEの評価が出されていない国から順次行う。内容は米国、カナダと同じように。
115	すべての国を一律に評価するのではなく さんせい

116	公平に各国から情報を求め、しん速に評価を実施、その結果を公表するのに当たり、各国及びリスク管理機関との十分な調整が必要と思われます。
117	世界のBSE根絶のため、不明のリスク12についてもリスク評価をせよ。
118	全部の輸入を実施している国のすべての肉を全体的日本消費者への流通肉のリスクとして評価すべきである
119	・輸入量の多い国から優先的に行なうべきである。 ・一律にする部分と分けられればなお良し。輸入量の多い国の方が評価面で先進的であると思われるが他の国がその基準レベルまで出来る評価とした場合、評価が甘くならない事を望みます。
120	・ステイクホルダーすべてを集めるのではなく、例えば対消費者など、限定して行うこともあってよいと考える。 ・リスコミで得られた意見が評価結果にどのように反映されているかをステイクホルダーに伝えるべきではないか。
121	輸入の多い国から評価するべき。
122	消費者の理解を広く得られるようにしてほしい。リスク評価とリスク管理のちがいが理解されていないのでは
123	(1) OIEの評価で下位又は評価を受けていない国。 かつ(2)(1)の量の多い国)1)最重要。 (3)評価は上位だが、量の多い国。2)次点
124	・メキシコ産、ニカラグア産、中国産等の牛肉、牛内臓肉輸入され、国民は表示なしに食べている訳だから、国民の健康を守るためにも、ただちに評価にかかるべき。 ・データがなく、評価できない国からの輸入を認めるべきではない。
125	事実と、判断基準、判断過程の話を明確に分ける
126	厚労省、農水省が単独で食の安全を進めることはリーダーシップをとり、進めていくことは異論はないが、今回のようにリスコミで適宜一般消費者をまじえた意見交換が大切です。是非、活発に進めて戴きたい。又、TVや新聞etcのマスメディアを有用し、リスコミに出席出来なかった人に対してもフォローすべきと考える。
127	輸入量の多い国から優先的に評価を行っていくのが良いと思う。
128	当然、輸入量×安全性の観点で実施すべき
129	輸入量の多寡及び国際機関等におけるリスクの高低を勘案に評価すべき
130	・リスク評価に要する工数、費用(元は税金)なども、同時にわかりやすく、公表すべきと思う。 ・「100%の安全はない」「評価、管理には自分達のお金が使われている」前提をすり込まないと、いたずらに高い安全を求めてしまう。
131	輸入量から評価する。理由、拡大性、風評的要因が考えられる為。多い国から行う
132	問3に書きましたが、食安委として、平成16年にまとめた中間報告の内容が、その後の科学的知見によって変わったのか、変わらないのか、危害度(BSE発生しての牛肉の)と再評価して、国民に示していただきたいということです。国ごとに評価するなら、情報の不明(日本から見て)な国の牛肉を優先すべきと思います。
133	・本当の事、リスクの事;スピーデーに消費者へ発表してほしい。 ・すべての国を一律に評価してほしい。どこから入った牛肉でも、安心して食べられるように。
134	リスク管理機関に求められてからではなく、食品安全委員会自らまず、消費者他ステイクホルダーとのリスコミを通して意向を見きわめ、自主評価をして頂きたいと切望します。
135	相変わらず消費者発言がどこへもできて発言する人なので疑問です。
136	GBRI、OIE清浄国は不要。アメリカ、カナダの再評価不要。輸入量の多い所とリスクの高さをクロスし、順番を考える
137	リスク評価という事柄を、一般消費者にもっとPRすべきと思う。その上での議論がもり上がることを期待
138	輸入量の多い国からではなく、同様に各国に対応すべきと思う。事業者、専門家の中には飼料等の輸入業者も入れるべきである
139	すべての国について行うべき、優先順位については、開発途上の国等なんらかのリスクのありそうな国から行ってはどうかと考える。
140	基本的には一律で評価するのが良い。科学的で公平な評価であれば、最終的には理解は得られる(BSEに関しては量の多少にはあまり関係ないので(消費者に受け入れられない)、輸入実績のある国は一律に評価するのが望ましい)

141	リスクが存在する以上、一斉に評価すべきだと思います。困難が予想されるかもしれませんが、なし遂げたことこそ偉業ではないでしょうか。国あるいは国民に対して、「真」のリスク評価機関になって欲しい。
142	リスクの多い国から評価すべき。
143	上:その例が広いと思う(輸入量の多い順)
144	輸入量の多い国から優先的に評価。最重要なことは、リスクの評価 = 規制に直結しているものではないことをキッチリ説明すること。食品安全委員会の役割りは、リスクの評価とその説明であり、それを受けて、実際に購売、使用するのは、あくまで消費者、ユーザーだということがわかっていない人、メディアが多過ぎる。
145	その国の牛肉の危険性と輸入量のかげ算によってリスクが決まってくるのでかならずしも輸入量の多い国から優先的に評価しても意味がないと思う。一律に行えば良いのではないか

問7 上記で選択したものを含め、会全体を通してご意見やご感想がございましたらご記入ください。

判別不明の箇所は 〇 で表示しています。また、個人を特定できる文言については、 〇 としています。

- | | |
|----|--|
| 1 | 今後とも食の安全(安心)に関するリスコミを、主要都市に限らずそれ以外の地域でも開催してほしい。
リスコミは非常に大事。(消費者、国民は知る機会として)課題毎に出来るだけ前広に開催してほしい。 |
| 2 | 来年度のBSE検査の全頭検査補助金廃止について、検討すべきと考える。自治体での対応が違ってくことは問題にならないか、それが安心につながるのか |
| 3 | 評価を実施するかどうかの見解ではなく評価を実施した結果についてのリスクコミュニケーションだと思っていました。プリオン専門調査会の出した見解を広く公表周知し、評価の実施に取り組んでいただければいいのではないかと思います。 |
| 4 | 消費者の立場、行政の立場として時間もかかる問題で吉川座長以下大変だと思う。リスク評価自体は積極的にやってほしいとは思いますが...その結果管理機関が適正にうごけるのかという点もある。 |
| 5 | いろいろの分野からのパネリストの方々がおり、今後、食品について考えていくうえで、参考になりました |
| 6 | たまたま日経新聞で本日の会議のことを知りました。パソコンが使えない人も含めてせっかくのよい機会が得られなくなるのが今後残念です。 |
| 7 | 本日の会議の案内など情報を広く知らせる方法について、多くの方が参加できるお知らせの方法が、必要かなと感じました。 |
| 8 | 日ごろ疑問に感じているところがよくわかりました。 |
| 9 | 大変勉強になりました。一方的な意見でなく、色々な立場からの率直なご意見がきけてよかったです |
| 10 | 時間設定に不満がある。13:00~14:00の方が良い。食品安全委員会自らが、米国、カナダ以外からの輸入牛肉について評価を行うことについては十分評価でき、そのことについてリスコミを行うことはいいことだが、時間の都合もあるだろうが、配布資料の「プリオン専門調査会の見解について」H19.3.19付について何らかの説明がなかったことは残念だ。 |
| 11 | この間原発の安全性にかかわる業界ぐるみの不正が暴露され、政府そのものが行なった安全点検と評価もいかにいいかげんであったかが、明らかになりました。食品安全委員会も日本では内閣府の機関であり、その意味で限界性を持っていますが、リスク管理機関の判断またず(諮問あるなしにかかわらず)独自評価を行う姿勢は大切であり堅持いただきたい。情報や調査の手段の意味で弱い立場にたつ消費者は安全が明確にならない食品を、食卓に盛ることに大きな疑問を感じます。安全性の評価と基準、公表の仕方は科学的で、一貫性が必要であることは否定しませんし、100%安全な食品はないことも否定しませんが、消費者に「安心」を与える立場からの、安全基準、評価、公表である姿勢で常に科学性、一貫性も追求していただきたい |
| 12 | 中国の施設が良いから安全というのはおかしい、と場の管理ですむものではないと思う |
| 13 | 当日資料が大変多いと思いました。前もって資料を送っていただけると良いと思いました |
| 14 | 食料は、人の生命の源であり、第1義的には必要量の確保が必要です。しかし、リスクを含んでいることは否定できません。従って、消費者に情報を提供できる、公平中立機関の役割は重要と思います。場合により管理機関による禁輸措置を行ったり、レベルによっては、リスクをランク付し消費者へ提供し商品選択の自由を余える(ABCなりの表示と説明をする)システムの確立を行うべきと思います。本日は大変有意義な会議を開催して頂きありがとうございました |
| 15 | 食品安全委員会が日本社会に与える影響は非常に大きくとても難しい部分がある。日本の常識、世界の常識がイコールならば良いと思う。一方では、ダメなものは、化学的根拠に基づいてダメだとキチンとしたリスク評価を食品に対して行ってほしい。 |
| 16 | 一消費者としては興味はあるけれど理解するには困難でした。リスクコミュニケーションに慣れていないこともあったと思います。消費者としては今回の専門調査会の見解はとても大事であり、報道(新聞等)でもわかりやすく一般に知らせていただきたいと思います。世界共通の評価になってほしいと思います。 |
| 17 | 国民に食の安全性を認識してもらうのに時間をかけるのは当然である。過去の食中毒の歴史を見ても事例が発症してからの対応が後手に回っている。そのようなことがないように事前にリスク評価するのが食品安全委員会の仕事であると思う。大変な仕事ですが頑張ってください。 |
| 18 | 政治的圧力、主導が感じられなかったのが良かった。 |
| 19 | 今までは、結定されてリスクコミュニケーションが開催されて来たと思うが、今後は「リスクコミュニケーション」主体で、これからの政策決定に役立てて欲しい。中間報告のリスコミもぜひ実施して欲しい。 |
| 20 | 日本国として食料を輸入に頼っているのは危険です。第1産業の保護を積極的に行うべき。未来において危険度大です。 |

21	<p>・今回はたまたま、おみやげで主人が買ってきた牛タンが中国産という記入があったので、この会を新聞でみたので参加しましたが中国産のものが、リスク評価されていないことにショックをうけました。</p> <p>・中国産牛肉については加熱されたものが輸入対象である様に伺いましたが、塩牛タンは生で冷凍でした。仙台のおみやげです。お聞きしたいと思いましたが、時間がない様でしたので書かせて頂きました</p>
22	会場からの意見も是非検討課題に入れて頂き安全を求めて頂きたい
23	<p>生命をつなぐ為に生命あるものを頂く。それには安全、安心が根底にあるべきです。国民の健康、命を考えていくべき行政が、安全、安心を一番に考えての選択ができるかどうかにかかっていると思う。米国でのいろいろな要求(月れいを30ヶ月にすべきとか)をうのみにせつ100%安全を保証すべき立場から評価もすべきです。</p> <p>今回は生産者のお話に安心しました。日本人の食文化、食生活に責任もつ為に日々生産に従事されている事に安心し、動物性たんぱく質を与える事など考えられなかったという事にも感動しました。内骨粉のエサを与えていなければ、このようなBSEの問題もおきなかったと思います。</p> <p>BSEも大事ですが、アメリカ産牛肉についての成長ホルモン剤の投与についてもとっても心配です。そこの調査や情報提供がほしいです。</p>
24	安全と安心という相反する言葉を両立させようとするためか、特に質疑応答では相変わらず消費者サイドの無知ぶりが目立つ。しかしながら今回の各自の検査は趣旨はわかるが、実効性と、それによって更に、非科学的風説の流布にならないか心配。国内に入る牛肉のみに絞ってもかなり厳しく、しかもそれを科学的立証は困難...で、アイデアは良いが無理があるのは否めない
25	GBR、OIE等で評価できない国における評価するためのデータが不足することが考えられるので各国共通の正当なリスク評価が得られる(決定できる)のか不明な部分があるのがいじめない。データの収集方法、入手先等も公表することにより評価する必要がある
26	<p>・なぜしもんから「自ら」にかわったのか理解できない。</p> <p>・リスク評価したものをどのように反映するのか？各国への条件づけなど...。具体的な活用方法がみえない</p>
27	<p>1. 輸入食品に関して、従事からメディアの情報を収集、中味を精査する中でアメリカのあの「ごうまん」な態度はどう考えても許せない。</p> <p>2. 少なくとも輸入牛肉を政治の道具に使ってはならない。基本は毎日食する安心と安全である。</p> <p>3. もし片寄った判断が外国等(アメリカ...)から圧力により安全が侵害された場合はその原因、誰が判断したのか等「責任の所在」を明確にすることである。</p> <p>4. 少し本題とははずれるが外国特にアジア・オセアニア圏とのFTAは早く結ばないと遅れば遅れるほど日本は不利な立場となる。今でなく将来を展望した勇断を功に願う。当然FTAの締結に伴ない自由に変える食品のチェック体制の充実は云うまでもない。</p> <p>5. 抜き取り検査は検査とは云わない。(前提は安全)・密輸の横行を見れば解るのではないか。</p> <p>・グローバル化する国際情勢の中で食の安全はどうあるべきか独立した「食品安全委員会の役割」は、はかりしれない程大きい。</p> <p>・マスメディアはもっと関心を持って安全の本質を取上げるべきではないか</p>
28	「消費者」の立場で、と思って参加していますが、難しいですネ。発言された方々のイケンや、姿勢が「消費者」の代表とは思われたくないと感じました。
29	講演の方、パネラーの方々の説明は大変わかりやすく貴重な情報となりました。ただ、会場からの質問者は米国、カナダの 　　　　　　　　　　　にあり一般の方々に対しては問題
30	意見交換会の意見が予見に基くものが多い
31	<p>(1) 牛生肉の野菜とのソース浸しなどは加工品に類するので原産国の表示は義務はなく業者委せと承知しているか、BSEの問題の観点から表示を義務付けるべきである。</p> <p>(2) オーストラリア産の牛肉は相変わらず、食した時臭みがある。飼料の原因と聞いているが、これだけの歴史、量から云って改善の余地はないのか、同じ牛なのになぜかと思う。</p> <p>(3) 輸入牛肉について、生肉と加工肉との統計的な分布がなく、数字、調査公表がほしい。</p> <p>(4) アメリカ業者の査察を行っている様ですがパンフレット、TVetcで報道されておりますが、委員会独じとして1時間位のビデオを作製して実状を公開してほしい。</p>
32	今回のリスコミの主旨が十分に認識されていない意見交換の質問内容からその様子がみてとれる。質問者に回答することも大切だが、その折りにきちんとしらせることも大切
33	大変勉強になりました。B.S.Eの問題も感心ありますが出てくると又かという他人事のように外国産はかわない、さけるという程度ですが普段は皆さん感心ないようで月日がたつと最初のころよりうすれて外の問題ととらえられていると思うので、少しづつの積み重ねが大切と思います。食にずっとかかわりたいです。

34	初めてリスクコミュニケーションに参加しました。 お話はわかりやすく、概ね理解できました。酪農業の木村様もとても貴重でした
35	みずから評価をぜひ進めて下さい。
36	・リスク評価手順及びリスク評価の難しさにつき理解を深めることが出来ました。 ・配布資料の一部においてモノクロ印刷のため、見にくい箇所がありました(P13)
37	問1(6)について、まずは安全という言葉の法的社会的道念的いずれの場合においても定義付けが必要であろう。食育が重要。
38	の出されている意見に対しては食安委はこの後検討していく必要のある考え方だったと思います。評価対象となる国の選定が現時点で輸入実績がある国とされているが、牛輸出国(生産国)の国別上位で日本に輸出してなくても評価するというのも考え方としては、いいのではないかと思います。
39	外国産 = キケン、国内産 = 安全という認識が前提である。国内産でもキケン性が高いと考えられる食品
40	血液 乳の質問をさせていただきました。
41	会場からの発言はBSE、アメリカ産牛肉に関してで今日のテーマに関しての発言が少なかった。何のための意見交換会だったのかなと感じる
42	他の4か所で、どのように、意見交換が実施される(た)のか、又、HPで公表し、それがどのようにリスク評価にとり入れられたかを、今後知りたいと思います。今回傍聴させていただいた限りでは、もっとランダムに、多数の意見(的を得たもの)を集める必要があるのではないかと思います。私自身は自ら評価はどんどん実施していただきたいと思います
43	本日のリスクコミュニケーションの場で初めて認識した事柄が多く、改めて情報不足を痛感した。当方の努力が足りないのか、そればかりでもないと思う。
44	「安全」という基準は世界共通(例えばOIE)でなければならない。日本のリスク評価において、ダブルスタンダードが存在することに問題がある。対米国産牛肉の輸入に際して、日本の安全の尺度と他国の安全の尺度に差が生じることはおかしい。日本の「安全」基準がズルズルとOIE基準に引きずられて行く気がする。「その基準の追認(評価は食品安全委員会だ)が政府間(対米)で先んじられている。」報道(あたかも報道機関 = 食品安全委員会のような)がリアルであり早い。安全にゼロリスクはない。リスク評価が出来る国から輸入すべし。(買い負ける!!)「安心」を輸入しているのではなく、「安全」を担保に「安心」は買い手側に任せるべき。(食べる自由、食べない自由)その為の「食育」強化であろう。食品安全委員会は定性、定量的評価に時間がかかりすぎる。米国の手の内で食肉も飼料も量と質の間で踊らされているような気がするが、しよせん(食肉も飼料も)持たざる国 = 日本に言い訳のようなリスク評価は似合わない。
45	・参加者が少ないのは少し寂しい感じがしました。テーマがあまり興味深いものではなかったのでは。 ・現在の最も感心は、アメリカの輸出圧力のことだと思う。食品安全委員会としてリスク評価をする上での基本的な考え方について議論するものがあっても良かった ・アメリカでの輸出プログラムのもとに20か月齢未満の牛肉を輸入されているが、これがOIEコードの30か月齢未満とするように変更するならば、その時に課題となるもの、ポイントなどをあらかじめ、消費者に提供するなどのテーマならば、もう少し、感心が高かったのでは。 ・日本のと畜場で行なわれている全頭検査の継続するかしないかのテーマも良かったのでは。(法的には20か月齢未満は検査不用となるが。) ・食品安全委員会が自から評価を行うことを国民に問うということは、国民にとってなぜ問われるのかがとても分りにくいもの。 ・評価は輸出国の意志を確認してから進めるべきではないか。 ・余けいなお世話と思われぬように(日本も他国から同じことがされるのでしょうか?)
46	・参加人数が少ないのが気になりました。もっと広く募集する方がよいと思います。 ・今日いただいた資料はとても参考になります。ただ、不安になる資料でもありますので、評価したことを輸出国に提案、要望するなど適切な対応と改善結果をつみ積んで、同等の安全レベルにしてほしいと思いました。国も輸入先にありきではなく、どういう基準で輸入するのか指差し、表示を義務化するべきだと思います。
47	本会のような会は各地方都市でも開くことが望ましい。e - マガジンの文章がむづかしいのではないかと、多少不正確でも目的を明確に記せば以何

- 48 ・現状の流通の中でもあたりまえのように、取引するにあたりBSE検査証明書の提出を求められているのが実態となっています。このような中で21ヶ月未満でも日本国内のBSE検査が行われているか？
・今後、輸入牛肉の月齢基準の見直し・また日本での21か月齢未満のBSE検査の中止等により国内の流通の混乱が心配されます。日本として国際情勢に対応していく上でも、特に消費者、小売店等の理解される中で対応願いたい。
- 49 ・開始時間について、もう少しはよい時間になりませんか？
・今回のリスクコミュニケーションが開催される直前に米国の査察実施と規制緩和検討のニュースが流れました。現在、米国に対する不安が大きいのは「特定危険部位の除去が正しく行なわれていないのでは？」との思いがあることも理由の一つだと思います。今回のリスク評価にあたって、その部分の評価をきちんとしてもらいたいです。これを守ったらとの前提自体の評価（輸出プログラムが守られることが前提の評価では、それ自体に対する不安がある現在、不安のきえ様がありません。）又、評価したものを、どの様に使うかとの話が議論されましたが、その議論をきちっと進めていただきたいと思います。
- 50 リスクコミュニケーションを開催する時期の問題。BSEに関しては酪農生産者の意見も聞き入れてほしい。4月下旬は酪農家は畑作業忙しくなる時期。
- 51 リスク管理機関からの諮問にかかわらず、国民の食品安全・安心に関するテーマについて、自ら検証を行い情報発信を行うことが求められていると思いますので、今後の食品安全委員会の取組みに期待したいと思います。20ヶ月令以下のBSE検査の問題についても、国の検査費用助成の期間が3年間で終了するとすれば、国内産牛肉に未検査牛肉が出回ることも想定され、BSE検査技術（精反）の進展も踏まえて、（国民は検査技術の進展については分らないので年次報告的なものも必要と思われる。）新ためて20ヶ月令以下のBSE検査について評価を行うべきではないか。専門委員の皆様は専任ではないので、大変ご苦労されていると思いますが、期限を切って専任体制をとれないのか、検討して欲しいと思います。（研究者は公募するとか）
- 52 今まで数回参加しましたが、行政からの話で、一方的というのが「リスクコミュニケーションをやった」という違和感がありました。今回は、各立場のちがう人たちからの意見、声がきけて良かったです。安心できるための、情報はわかりやすいものでないと伝わらないと思います。米国産牛肉が多くの人に食べられている事実は、消費者（国民）全体が支持されているとは、個人的には思わないのでマスコミの報道が気になるところです。
- 53 ・開催された場所（ホテル）が中心地から離れており、少し不便であった。
・資料のうち、プリオン専門調査会の報告書について、説明がされず内容が理解できない。
・牛肉輸入国の評価の是非と、「自ら調査」の是非がディスカッションの中で同じように話され、よくわからない所があった。
・リスクコミュニケーションについて、消費者や生産者の考えや、食品安全委員会の意見が聴けて、大変参考になりました。
- 54 ・ホームページ（見ていない人）や、こういう会に出席できない人に情報を公開する工夫が必要なのは。
・パネリストの中で多く話す人と話せない人がいて、平等に話して頂いた方が良かった。
・おもにアメリカ、オーストラリアの牛肉が良く名前がでていたので他の、バヌアツ、パナマ、アルゼンチンから輸入されているとは知りませんでした。国民は、全然知らない人が多いのでないでしょうか。又、このような会を行ってほしいです。
・コーディネーターのすすめ方が良くなかったと思います
- 55 ・参加者が非常に少なく驚きました。どうしてなのか一考を...・ネットは皆が見ている訳ではない！！
・情報発進がほしい。
- 56 直接見ることができないので、こういうきかいは作っていてももらいたい
- 57 こんなにも様々な国から、牛肉を輸入していたとは知らなかったのもそれだけでも有意義だった。それぞれの国に対して評価することは必要だと思います。
- 58 世界で最も厳しい消費者の存する日本。科学的手法以外の要素があってはならないが、全面公開であればその過程も、公開されているわけですので、この原則は必ず死守して欲しいと思う。消費者は、グレーゾーンに非常に反応し易く、圧力によって何らかの影響を受けるようなことがあれば、逆効果となることも、そろそろ目覚めて欲しいと思う。
- 59 ・日本の牛につき、OIE及びGBRの評価を取ることが必要（他国との比較に重要）
- 60 ・九州での開催地を増やして欲しい（鹿児島、宮崎等）
・パネラーの方の意見発表が長すぎるので、適きポイントのみの意見をまとめて、発表してもらいたい。

61	(1)貿易は2国間取りきめ。OIEが国際基準で各国が受け入れられるとかは、食品安全にあてるものさしではない。各国条件が何故有るのか。買う方の条件が普通は優先されるべきで障壁ではない。何か意見を作り上げていくのにリスクミを使っているのはひどい。つけは未来に回して悔が子孫に残、リスクの小さい大きいではない。取組み方が問題。結論が出ていない、病気を扱っているのに。買うのは消費者であり買わない選択岐を残していくべき。
62	安全を求めるのを否定はしません。しかし、その代しようにして安全的な供給、安価の供給がそこなわれないように願いたい。私は安い牛丼をいつも食べたいという一人です。安全であれば、まずくても、高くても良いという話ではありません。
63	・主要な国際貿易産品については、基本的に国際基準等で準権にすることが適切と考える。 ・特に、生体牛のリスク評価については、OIEの最近報告(07.5月)に基づいて行うのが妥当と思う。 ・輸入の現状から、特にメキシコに関してのリスク評価を重視・迅速化する必要があるように思う。(業務用や外食産業用の牛肉等の使用実態に関して)
64	食品安全委員は内外の圧力、響境に左右されず自ら判断し、政府に報告、国民に情報開いて欲しい。国際基準は基本的には必要であるが、応々にしては大国の意志が強く出ることもある。由に日本国民としては自国民の「安全、安心」と一番に考えて欲しい。日本としては日本としての判断があって当たり前と考える。(このことを他国にも納得させるのも必要である)
65	パネルディスカッション。・課題がまとまっていない。パネラーの発言が少ない。イスが座りにくい、机があった方が良かった。
66	パネルディスカッションのメンバー。消費者の代表は一般的な消費者ではない。パネラーの消費者代表の方は消費者運動の専門家のため、大多数の一般的な消費者の意見を求めるには不適切と思う。であればどうすればよいか、多数一般消費者の真の意見を聞く方法は新聞での情報提供(公開)し、ご意見を食品安全委員会事務局へ出してもらおう。消費者運動の専門家の人々の成果は、行政の方針にどれだけ反対意見を出したかが大切という認識が強い。BSEの対応(20ヶ月齢)は過剰対応と思います。(世界標準に比べ)これは真の一般消費者の意見とは差異があるのでは!
67	何故、評価なしに、安全性の低いものが輸入されてしまうのでしょうか? Data等は、提示を求められるのではないかと表示の少なさを消費者はより高い安全を選択出来ないのは望ましくない。
68	・牛肉を含め、食の安全性についての講演が詳しく聞いて良かったと思う。
69	リスクコミュニケーションの場でありながら、自己の意見を押し進める様な発言が多いのは感心しない。
70	遺伝子組みかえ、このほどある害虫に強いコーンがみつめられた国がありました。これが日本でさいばいされなくても、他の国でさいばいされ、それがしりょうに(かちくの)なったり、一部食品のげんりょうになったりして日本に来る場合も考えられる、げんざいりょうの中のそれが、わずかな量だったら表示されなくて、わからず入ってくる可能性もある。日本でも花粉しように対策に、遺伝子組みかえイネも実験さいばいしている。風で花粉がとぶ事も考えられる。これらのリスク管理や、リスクコミュニケーション、意見交換をぜひやってほしい。農水省、食品安全委員会はどう考えているのか知りたい。質問者でずーと手を上げている人がいましたが、かけてはもらえませんでした
71	会全体を通してしりに「自ら評価」という言葉が出てきている。食品安全委員会という組織が厚生労働者、農林水産省の依頼のみで行っているだけでは不足と考えます。監査役的な機関の方向性が自ら決められないのでは効果あるいは効果をあげるチャンスを逃す可能性が高くなる。パネルディカッションとして議論された内容は抽象的な表現のものでした。輸入協会の人のみがかみあっていた。ディスカッションを通して何を知りたい(情報を得たい)のか、目的に対してどれだけ効果を確認するのか。
72	・パネリストの発言が に集中するのは当然だが、食品安全委員会の事案であるなら、委員を数人入れるべき。 ・毎回思うが、閉会の時間が守られたことがない。限られた決められた時間の中でできないのは、事務局の不幸だ。
73	この会の存在理由は、生産者に最大限の配慮をしつつ、消費者に真の情報(定量データ)を提供することである。牛肉を食べるかどうかは、消費者個人に委ねるべきである。これからは牛肉は20歳未満は食べてはいけないというようなタバコのような扱いをするべきだ。リスクは個人が負うべきものが、食品であろう。 は信頼を受けたいのであれば、ヒゲをそるべきだ。カンロクをつけようと、考えているのだろうが、それは全くの逆効果です。ご忠告まで。牛肉を輸入している国を知らない国が、多いというパネラーが、2人いたが、低能なパネラーを集めましたね。パネラーの選定が、異常ですね。普通の一般常識の国です。(1国だけを除いて)この会が米国への配慮であることがパネラーの質を見て、否定は出来ないことがよくわかりました。金の無駄づかいである。さっそく、新聞機関に投稿させていただきます。
74	消費者団体等反対者におうかがいするのではなくもっと主体的もっても良いのでは。リスクコミュニケーションを感じがいが多い。リスク = x。その点の理解が判る様な話にして欲しい

75	その時々で健康上問題となった事例やマスコミ等でよく取り上げられた内容について取り上げ、常に一般消費者にとって必要性和かタイムリーなものであって欲しい。従ってBSEとか残留農薬に固定化することがないようにして欲しい。
76	もっと一般の社会人が参加しやすい土曜日や、PM5時以降にセッティングし、もっと情報を公開すべきだ。わざと、一般人が参加しにくいようにアレンジしていると思われてもしかたがないのでは。う回輸入牛肉、加工、冷凍品の本格的調査をして報告して頂きたい。カナダ、アメリカから、国連諸国へ、そのまま、ラベル張りかえで日本へ。(もしくは不正流入ルートについて)
77	安全委員会で取り上げられるテーマが科学的な分析である以上食品行政(厚労省)で習慣から法律が作られ、諸外国の科学的知見から作られている事と反対のことが多く、輸入時に検えきで、法律イハンとされています。 ・輸入検査でハネられる事が科学的に正しいものか。 ・国内の行政でハネられる事が科学的に正しいものかを取り上げて頂きたいと思います。 ・微生物基準、検査方法が日本と海外では大きく違っている ・凍結前加熱済み食品の定義が日本では明文化されておらず、担当官により異なる・Coli formの定義が異なる ・海外(Eu/USA)では輸出時にPositiveとして輸出されるものが日本ではNegativeとして輸入せざるを得ない為、そのリスクが消費者に負わされている食品が多い
78	BSEがらみのリスクではいつも思うことだが、質疑応答にあまり実りを感じない、質問者側に進歩がないように思うし、またそういった方々ほど真っ先に挙手して、毎度同じような質問で(自己主張?)で時間を労費するように思う。資料に良くある質問とうの回答という用紙を入れてこういった質問はご遠慮下さいといった感じで抑制できないものだろうか?
79	1. 日本でのBSE対策は、やりすぎ。国民の税金のむだ使いだ! 2. 国際基準に従うべき。(貿易は) 3. 原産国表示を行うべきだ!!(メキシコ、チリ、等)これによって、消費者が選択できる。 4. SRM輸入自粛要請(13カ国に対して)実際に機能していない。検査していない。(動検)メキシコ、チリ、中国、しっかり検査していない。
80	・トータルの時間は3時間でよいと思いますが、予定どおりの進行をされるべきだと思います ・多くの人の意見に答えるには、関連の質問のいくつかにお答えいただくような形成でもよいのでは ・評価については賛成です・アメリカ、カナダの時のような、管理の条件がつかないようにしていただきたい ・一担評価されても、各国の事情が変われば再度の評価も考えていただきたい
81	これまで数度、このようなリスクコミュニケーションに参加し食品安全委員会や食の安全に関するパンフレットを毎回もらい、同じものが家に数冊たまっています。これは税金のムダ。資源のムダだと思いませんか?これらの固定性の強い資料等については入口のテーブルに並べて、「ご自由にお取り下さい。」とすれば充分です。また同様のものをインターネットサイトにはり出して「このURLのサイトで同じものをごらんになれます」とかいう紙一枚もテーブルにおいておけば、ムダをへらせます。これを提案します。食品リスクのエンドポイントは健康被害です。これをテーマとしている会の会場で分煙がてっていされていなければ、安全もへたくれもない、とは思いませんか?リスクミへの参加者が、甚大リスクにばくろされては意味がない「この国どこにあるのかな。」との発言はその国に対して失礼で稚拙である
82	米国農務省からのWTO通告etcの強力なアクションが米国産牛肉輸入に関しあるが、日本人の健康維持は日本の食品を司さる農水・厚労省が自信を持って進めるべきである。注)コーディネーターの“パネラー”と云われるが“パネリスト”が正しく“パネラー”という言葉は英語ではありません。
83	リスク管理機関との連携は必要だと思いますが、「諮問(農水、厚労等)による評価」には依頼する側の何らかの意見が影響するのではないかと疑いたくなります。食品安全委員会の自らの評価に期待します。評価項目に関する検討過程にも興味を持って見守りたいと思います。
84	誤解されている人が多いのが事実であり、US産原料採用にあたり自分なりの説明責に、参考になった。
85	食安委として取りあげていただきたいのは、 (1) マスコミに露出度が高く、かつ間違った(科学的)取り上げ方がされているような事項(時事的事項)例えば、洋菓子の食中毒危害度(不二家でのマスコミの間違った解説が目についた) (2) 国民がばく全とした不安を持つ(かかれていて、時折しかでてこないもの)トランス脂肪酸、ポリアクリルアミドなど、科学的な正しい知見を国民への食育の観点でのリスクミも望みます。

- 86 ・まず、会場に来てぶ厚い資料をいただいたが、メールで前もっておくっていただけたら、資料全部に眼が通せたのに意見も言えたのに、残念です。
 ・輸入牛が、こんなに多くの国から入っていたとは思わなかった。国によっては生育環境、えさ、死亡した牛の処置など、リスク評価の基準などバラバラだと思う。むづかしいからこそ、独自の基準で食の安全のために食品安全委員会が、がんばっていただきたい。
 ・パネルディスカッション、よかったです。時間がもう少し長くてもよかったですかなと思いました。(いろいろな立場の方の話が聞けて)
 ・ のお話は解かりやすく良かったです。
 ・今日は参加してよかった。参考になる資料をいただき帰ってよく読みます。これからはHPをよく見て食品安全委員会の動行を見ていきたいと思いました。
- 87 のお話の中にもありました、OIEに必ずしも全て従うのではなく、対輸入国の状況をよく見きわめ、OIEの基準を尊重しながらも、相手国との話し合いをよくつめ、生態牛だけの安全性ではなく、解体処理、肉になってからの安全性も充分考慮されるべきだと思います。流通業界の方々はOIEに準ずることを歓迎されて居る様ですが、万一事件になってからでは、業界にとっても必ずしも得にはならないのでは...。輸入量が増加することは業界にとっては、喜ばしいことでしょうかが大極的な考え方をして頂けたらと思っています。 の発言には、大変抵抗を感じます。輸入可のものは安全であるとの前程でのお話だと思いますが、あくまでも原産国表示をお知らせする為であり安全を保障するものでない。との言い方は、つきつめて行けばその様になるのでしょうか、業界の都合が優先されていると。消費者としては、尊大な態度と受け取りました。
- 88 1. 各国のと畜場は、個々バラバラか、標準化されているのか？(自動車メーカーのアセンブリー・ラインのような...)
 2. 安全管理の徹底にはコストがかかるが、安全コストと食品価格(輸入価格)とは、どういう関係にあるか。
 3. 関税と同じような考え方で、輸入牛肉に安全税をかけることは可能か？
 4. 牛肉(食品)を摂取(食べる)ことによる、人体の病気には、どんなものがあるか。
 5. 牛肉自体、メタボリック・シンドロームとの関係から肥満の原因物質と断定することは可能か。
 6. 日本人はどの位の牛肉を食するのが妥当だろうか。
 7. 牛肉輸入国のリスク・コミュニケーションの実態はどうなっているのか
- 89 ・我が国の畜産も安全に行われていることが、食の安全につながると考える時輸入される飼料の規制についても、もっと厳格な評価、あるいは消費者に迄見える評価が必要であろう。
 ・アメリカ、カナダの評価も再度同じように、他の国と共に進むべき(変化がないということも、データとして消費者として知りたい)
 ・OIEへの消費者を中心とする評価への提言は、指示します。
- 90 今後も、経緯を見りたいと思う
- 91 ・今後、アメリカ、カナダ以外の国のリスク評価を行うとのことだが、評価を実施する予定の国及び評価完了の予定は、できるだけ早い時期にHP等を通じて、知らせしてほしい。OIEの評価は判りにくい。GBRのような評価が判りやすく安心感がある。 の姿勢を高く評価します。
- 92 人間が常にリスクの中で生きている。だからといって、リスクのことをほったらかしてもよいということはない。リスクのことを知り、なおかつリスクを避け、有意義な人生を送ることが誰も望んでいることではないでしょうか。リスク評価もしても、しても、し切れないと言われるかもしれないが、リスク評価された分、どれだけの人間が助かっているかと考えると、むしろリスク評価が急務ではないかと思えます。今後もどんどん活躍して下さい。
- 93 非常によかった。
- 94 常に思っていることですが、「主婦連」が「消費者代表」なり得るのですか？自分の身の回りのお母さん方で主婦連のことを知っている、認識している人は皆無ですヨ。一部「消費者の意見」という立場ならわかりますが、それともいろんな意味で、農水、厚労、食品安全委員会は主婦連等とうまくつきあう必要があり、その延長線で呼んでいるのですか？70年代であるまいし、その辺考え直した方が良いと思いますが...少なくとも消費者の意見を主婦連が代表して言っているとは考えられません。
- 95 不二家事件を含め食の安全は重要な管理項目で、民間企業に自主的に安全、安心のしくみを導入する制度を食品安全委員会が主導でおすすめていく体制を期待する。ISO9001、ISO14001、HACCP、ISO22000等のしくみの導入が重要なことを今後の活動の中で取り入れていただきたい。